

令和 5 年度 国 語 科 シラバス

科 目	言語文化	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1年普通科
使用教科書	「高等学校 言語文化」（第一学習社）				
補助教材等	「読解をたいせつにする体系古典文法」（数研出版）「新明説漢文ノート」（尚文出版）				

1 学習の到達目標

言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。【知識及び技能】
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 社会生活を円滑に営む上で必要なコミュニケーション力の基となる「言葉」の力を身に付けるための大切な授業です。学習活動それぞれのねらい・目的を意識しながら、積極的に授業へ取り組んでください。
- 予習として必ず本文を通読し、意味のわからない語句は辞書等で調べておきましょう。内容的に疑問を抱いた点については授業内で解決し、授業後はふり返って内容を確認してください。
- 授業では「読む」「書く」活動だけでなく、「話す」「聞く」活動も行います。互いに相手が理解しやすいよう工夫を凝らしつつ自分の考えや思いを伝え合うことで、思考力を鍛え、表現力を磨くことができます。
- 国語力の伸長を図ることは、短期間で効率的にできることではありません。日頃から本や新聞を読み、活字に慣れ親しむことで、語彙力を増やし、表現の幅を広げ、豊かな日本語の力を身に付けるよう心掛けましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	我が国の言語文化に対する理解を深めるため、知識や技能を身に付けて適切に使っている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり、深めたりしている。	言葉の価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。
主な評価方法	・ペーパーテスト（事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題）の結果	・ペーパーテスト ・作成したポートフォリオの内容 ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・授業中の発言内容 ・行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	古文入門	「児のそら寝」 「絵仏師良秀 (宇治拾遺物語)	6	・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。	・古文読解に必要な基礎知識について理解している(a) ・内容や構成について叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している(b)
5	漢文入門	「訓読に親しむ」	7	・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の使い方、助字のはたらき、再読文字を習得する。	・漢文訓読のための基礎知識を理解している(a) ・漢文の基本構造を的確に捉え、要点を把握している(b)
6	歌物語	「芥川」「東下り」(伊勢物語)	7	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。	・物語の展開を把握し、和歌の役割を理解している。(a) ・認識や思考を支える言葉の価値について理解を深めようとしている(c)
7 8	近現代の詩歌	「自分の感受性くらい」 「こころの帆」	7	・現代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品にこめられた作者の批判精神を読み取る。 ・わが国の伝統文化の一つである俳句の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する俳人の作品を味わう。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を的確に捉えている。(a) ・表現の仕方、表現の特色について理解している(b) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。(c)
9	随筆	「長月ばかり」 「中納言参りたまひて」 (枕草子)	7	・自由に記述された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。	・古文解釈に必要な文語のきまりを理解し、的確な内容把握ができる。(a) ・古文の世界に親しむために、作品の歴史的、文化的背景などを理解している。(a) ・敬語の表現を理解している。(b)
10	故事成語	「漁父之利」 「狐借虎威」 (戦国策)	7	・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。	・訓読のきまりに従い書き下し文にすることができる。(a) ・文化的特徴などを理解し、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(b) ・文章から筆者の主張を読み取り、その主張に対する自分の考えをまとめ、表現を工夫して説明しようとしている(c)

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
11	日記	「門出」「帰京」 (土佐日記)	8	・わが国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と執筆意図を読み解く。	・古典を読むために必要な文語のきまりを理解し、内容を把握することができる。(a) ・古典特有の表現などについて理解している。(b)
12	唐詩	「静夜思」「春望」 (唐詩の世界)	7	・表現や技法(押韻や対句)に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。	・古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取り理解している。(a) ・表現や技法を理解した上での確に鑑賞している。(b)
1	軍記物語	「木曾の最期」 (平家物語)	6	・合戦を主題とした文学作品を読み、争いを背景として生まれた思想や人間のありようを知る。	・古典を読むために必要な文語のきまりを理解し、内容を把握することができる。(a) ・語り物の特色が表れていると思う描写や表現を指摘できる。(c)
2 3	思想	「論語」	8	・日本にも大きな影響を及ぼした『論語』について知り、孔子のものの見方や考え方を理解する。	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を的確に把握することができる。(a) ・訓読のきまりに従って書き下し文にすることができる。(b) ・複数の文章から読み取った要旨をまとめて、内容を把握することができる。(c)